



第94号

～礼儀と節度を考える～

平成武師道

(人間活動学)

『考えてみよう』

ここの所、芸能界やスポーツ界が不祥事事件が世間を騒がせている。

いつも行く馴染みの理髪店で髪の毛をカットしている間、いろいろな話題が各席から聞こえてくる。

内容と言えば、甘利氏辞職による TPP 問題よりもベッキーの不倫や清原の覚醒剤事件の事ばかり。

テレビを付けても、ゴシップネタばかり。

よっぽど皆さんは、国の問題より、ちょっとした不幸の話の方がお好きらしい。

まあ、これが大衆的なのだろう。

あまり難しい話ばかりでは、誰も耳を傾けてくれなくなり、一番困るのがマスコミなのだから。

とにかく特定の誰かを攻撃する事により、大衆の日頃のストレスを解消させ、皆の意識を上手く操作する手法。

本当に人間の大量心理を掴んでいる。

この手法は、今に始まった訳ではなく、人間が文明・文化を持ってからの長きに渡ってからの事なのだ。

何が真実で、何が嘘なのかの方が大事ではなく、どれだけ多くの人達が同じ考えなのかと言う事が重要みたいだ。

私達、大衆のほとんどは、全くそんな事は考えずに生活を送っている。

例え少しでも疑問を持ったとしても、「まあ、仕方がないか」のレベルで終わってしまう。

誰でも難しい問題を考えるよりは、ちょっと身近な人の事件を、さも裁判官になった気分で、

色々批評・批判している方が楽しいのだろう。

これも決して悪い事ではないと思うが、武師道的考えではないはずだ。

世の中で起きている事件に関して、何が真実で何が嘘なのかは、当事者以外は分からないと思う。

しかし、ここで一番大事なものは、何が美しい事に繋がるかと考える事である。

嫌な事件、醜い事件、不愉快な事件、真実は分からなくても、誰が悪いとかを言う前に、

まずは自分だったらどうなのかを考えなければならないだろう。

そして、起きた事を繰り返さず、身の回りから変えて行く姿勢を持つ事が武師道なのではないだろうか。

大衆迎合も必要だが、そこだけに染まらずに、我が道を美しく変えていく努力が大切である。

それは決して大衆的ではないかも知れない。

だけどそれが、我ら平成武師道の「義」であり、「筋」はないだろうか。